東京家政大学　人間生活学総合研究科　出題意図

年度	令和7年度
入試区分	2期
専攻名	臨床心理学専攻
入試制度	一般
試験科目	専門

出題意図

問1
平均値の差の検定に関する基本的な統計手法について理解しているかを確認することを目的とする。t検定と分散分析の違いを適切に説明できるかに加え、研究状況に応じて適切な分析手法を選択できる応用的な判断力を問う。
問2
心理支援の専門家である心理士に求められる力について適切に理解できているか、また自分の特徴を客観的に理解できているか。
問3
医療保険が適用されるようになっている認知行動療法の基礎的事項の知識の有無を確認している。
問4
公認心理師を目指すものとして，科学的知見と臨床実践の統合的理解について，知識・論理的思考・説明力を評価・判定する。
問5
・子どもの心理療法の特徴を、「発達」「権利・倫理」「家族・環境」という観点から、成人との比較で整理できているかを確認する。
・技法名の暗記ではなく、子どもと成人の相違点・共通点を自分の言葉で論理的に説明する力（構成力・記述力）を評価する。
臨床的視点（インフォームドコンセント、守秘義務、保護者・学校との連携など）を踏まえた論述ができるかどうかを見極める。